

# II

## 市内の被害状況

震度7を記録した大地震は、市内各地に甚大な被害をもたらしました。



▲全壊家屋(若柳福岡)



▲大きく陥没した歩道(若柳八木)



▲道路法面の崩落(瀬峰宮小路原)

### 1 人的被害

死者・行方不明者 なし

負傷者 重傷者6人／軽傷者544人

(うち重傷者4人／軽傷者128人は4月7日の最大余震によるもの)

市内では、最大震度7が観測されるほどの激震に見舞われましたが、死者・行方不明者ともに発生しなかったことは、平成20年岩手・宮城内陸地震の教訓や経験が、今回の大震災に生かされたと考えられます。

炎証明書が約6,000件、被災証明書については、24,000件を超える交付件数となりました。

### 3 道路被害

被害箇所 298カ所

【全面通行止め】

〈本震によるもの〉

市道35カ所／県道3カ所

〈最大余震によるもの〉

市道6カ所

〈平成24年3月31日現在全面通行止めが続いているもの〉市道2カ所

### 2 住宅被害

全壊 57棟

大規模半壊 28棟

半壊 343棟

一部損壊 4,552棟

床下浸水 3棟

本震と最大余震により、市内の住宅に甚大な被害が発生。平成24年3月31日現在で、り

### 4 ライフライン被害

電気

3月11日

送電網が寸断され、市内全域で停電。

3月14日(4日目)

一部地域で送電が再開。

3月17日(7日目)

市内全域で停電が復旧。4月7日(28日目)最大余震により、再び市内全域が停電。

### 下水道

3月11日

浄化センター、下水管きよ、マンホールなどの下水道施設に大きな被害を受ける。

また、停電に伴いマンホールポンプ場などの施設が稼働停止状態となる。

各避難所への応急仮設トイレの手配と設置を行う。

マンホールポンプ場に発電機を設置し、排水稼働する。

下水が滞留しているマンホールからバキューム車による吸引作業を行う。

3月14日(4日目)

流域下水道中継ポンプ場に発電機を設置し、排水稼働する。

4月7日(28日目)

最大余震の発生による停電で、下水道などの施設が再び稼働停止となる。

流域下水道中継ポンプ場に発電機を設置し、排水稼働する。

下水が滞留しているマンホールからバキューム車による吸引作業を行う。

4月8日(29日目)

各総合支所へ応急仮設トイレの手配と設置を行う。

### ガソリン・燃料

3月11日

停電のため、給油所で給油ができない状態になる。

また、地震と津波により製油、港湾施設が甚大な被害を受け、ガソリン・灯油などの燃料の供給がストップし、深刻な在庫不足になる。

3月13日(3日目)

【速報】広報くりはら災害関連情報で燃料流通状況をお知らせし、節約の呼び掛けを行う。

4月4日(25日目)

市内の燃料が安定供給され始める。



▲給水の順番を待つ長蛇の列(若柳ドリーム・パル)

▼停電により信号が消えた交差点(市役所前)



4月8日(29日目)

一部地域で送電が再開。4月9日(30日目)市内全域で停電が復旧。

### 水道

3月11日

停電に伴い、浄水場や取水ポンプ場、加圧ポンプ場などの水道施設に大きな被害を受け、市内のほぼ全域で断水。

最大23カ所に給水場を設置し、飲料水の供給を行う。

3月14日(4日目)

一部地域で給水が再開。4月4日(25日目)簡易水道区域を含め、市内全域で復旧。

4月7日(28日目)

最大余震発生により、復旧したばかりの水道施設が再度大きな被害を受け、市内のほぼ全域で断水。

最大で13カ所に給水所を設置し、飲料水の供給を行う。

4月8日(29日目)

一部地域で給水が再開。4月16日(37日目)簡易水道区域を含め、全面復旧。



▲給油を待つ車で渋滞した道路(菜館下宮野)